

◆技術改良試験

シラヒゲウニ地蒔き式養殖試験Ⅴ

水産業改良普及センター 與那嶺盛次

1. 目的

シラヒゲウニ(以後ウニとする)は、本県ウニ漁業唯一の対象種であるが、近年乱獲等により資源が減少し市場価格が上昇している。ウニの種苗生産技術や養殖技術は県栽培漁業センターや県水産試験場で開発され普及に移されている。

そこで、昨年度に引き続き県栽培漁業センターの協力を得て具志川磯根資源活用研究会と種苗生産を行い、その種苗を用いて2回の地蒔き式養殖試験を実施した。

2. 材料及び方法

第1回試験に使用したウニ種苗は、具志川磯根資源活用研究会の簡易種苗生産施設で生産した平均殻径32.1mmの4,100個であった。試験場所は、地蒔き式養殖の漁業権が取られている具志川地先のホンダワラ藻場の沖に向かって右側の海域であった。

養殖期間は、平成20年11月30日から平成21年9月18日までの293日間であった。養殖期間中6回、毎回各50個体の殻径を測定した。

第2回試験に使用したウニ種苗は、平成21年8月5日に採卵し、9月15日に採苗した平均殻径31.7mmの6,630個であった。これらの種苗は、棘が赤系統の雌雄親ウニをかけあわせて生産した。試験場所は、第1回目に放養した海域3ヶ所で平成22年3月17日から放養を実施した。第2回試験は現在も試験中である。

3. 結果及び考察

第1回試験の成長を図1に示した。平均殻径32.1mmのウニ種苗が、約7ヶ月後の平成21年6月26日には平均殻径73.3mmに成長して出荷サイズ

になった。ホンダワラを食べつくした場所に棲息するウニ約600個を取り上げ、隣のホンダワラの繁茂する場所に放養した。

8月21日、482個(平均殻径75.4mm)を取り上げその内の10個の身入りを測定したところ平均26.0gで、身入りや品質が良好であった。9月18日までに511個を取り上げた。生残率は、12.5%と低くなった。

取り上げた238個を使用して独自で生ウニ加工を実施し、仲買業者に出荷した。生ウニは、34パック(1パック100g)で、価格は平均941円/パックであった。ウニ1個当たり134円になった。

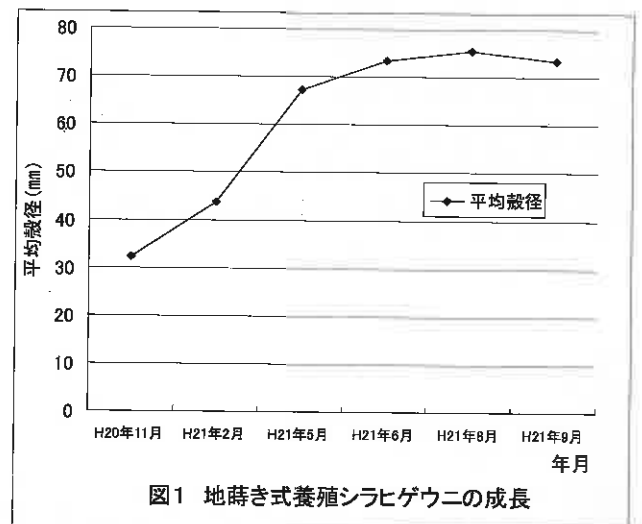


図1 地蒔き式養殖シラヒゲウニの成長

第2回試験では、棘の色が赤系統の種苗を放養したため、赤系統のウニが多かった。ウニは、繁茂しているホンダワラを登り中間あたりに隠れていた。平成22年9月から取り上げを実施する予定である。

4. 今後の課題

今後は種苗生産の安定を図り、出荷時期や出荷方法の検討も行いたい。



①シラヒゲウニ簡易種苗生産施設



②シラヒゲウニ種苗の中間育成



③中間育成中のシラヒゲウニ種苗



④シラヒゲウニ地蒔き式養殖試験海域



⑤養殖試験場所のホンダワラ藻場



⑥取り上げた養殖ウニの一部